

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:31 (82%) ②:7 (18%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:23 (61%) ②:14 (37%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (3%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:21 (55%) ②:17 (45%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:31 (82%) ②:7 (18%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:21 (55%) ②:17 (45%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:29 (76%) ②:8 (21%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (3%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:27 (71%) ②:11 (29%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:20 (53%) ②:18 (47%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:22 (58%) ②:16 (42%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:20 (53%) ②:16 (42%) ③:2 (5%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B（問 14～18）：FD活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 2 (5%)
 - ②学内外の FD 講演会等への参加： 8 (21%)
 - ③他大学の FD 活動の視察： 5 (13%)
 - ④その他： 8 (21%)
 - ・・・「大阪日本語教育センター主催、ICT日本語教育セミナーへ参加」4 クラス、
 - 「教科書作成」3 クラス、「学会での発表を聞いて学んだ」
- 未回答： 16 (42%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 21 (55%)
 - ②学内外の FD 講演会等への参加： 16 (42%)
 - ③他大学の FD 活動の視察： 8 (21%)
 - ④その他： 4 (11%)・・・「教科書作成」3 クラス、「学会での発表を聞く」
- 未回答： 12 (32%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：8 クラス（順不同）

- [1] 昨年度同様に、親しみやすい雰囲気と、わかりやすい授業を心がけた。・・・2 クラス
- [2] わかりやすい授業をした。 あきらめない授業をした。
- [3] 概ね好評だったので、これまでと同様、フランス語の基本に加えて、文化論的雑談も取り入れた授業を行った。その意味では、特に「改善」した点はない。
- [4] 昨年度の授業評価に基づいて改善した、というわけではないが、学生の満足度を高めるために、スピーキングの部分を増やした。具体的には、基礎的な表現を用いて短い自己紹介ができるように練習をする、というものである。
- [5] マイクをつけたまま教室の後方にいくとキーという音がして不快という声があり、今年度はマイクを使わずに授業を行った。（しかし、やはり人数も多く集中できない学生も多かった気がする。）
- [6] 前任者からの引き継ぎもなく、カリキュラムに沿って授業を行ったが、授業自体に？が付くような内容で、文献のレビュー、発表後の討論などはっきりとした、授業目的がないような授業であったため、学習者の自学自習を発表したような形となった。改善をするのであれば、より効果的な発表（日本語なのか、発表能力なのか）を問うことをしたり、講師側から学習者に与えるトピックをあらかじめ3つぐらいに決め込んだ方がよいかもしれない。
- [7] 初めて授業を受け持ったが、カリキュラム通りに進めることができた。しかし、ほぼ毎週にわたり学習者が学んだ日本語を発表させるため、学生数の多さと数、語彙数の問題、発表時間、に制限がある。そのあたりを改善したい。また、毎週発表させているため、他の学習者の発表にどれだけ注意を注いでいるのかが不明点でもある。改善点として、来学期は隔週の発表と理解度チェックなどを行うことが必要ではないか。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 20 クラス（順不同）

[1] 語学知識を詰め込むのではなく、最低限の知識を使ってコミュニケーション能力を養うことに重点を置いた。またフランス語科目であるが、文化的要素を多く取り入れて学生の関心を高めた。・・・4クラス

[2] 1. 学生には出席カード（出席チェックや小テストの点数を記入）を配布し、ポートフォリオとして活用した。

2. 出席カードの裏面には、毎回、授業終了後にその日の感想や疑問点を書くように指導し、個別の状況も把握するように努めた。書かれた疑問点については、その個人に返信するだけでなく、必要な場合には、翌週以降、クラス全体に指導を広げた。

3. 数字の学習の際には、グループでビンゴゲームを行うなど、楽しみながら覚えられるようにした。

4. ほぼ毎回小テストを実施し、学習したことを翌週までに復習して確認できるようにつとめた。学生の理解が不十分な箇所を把握するのも効果的であった。

5. 台湾人留学生との交流会を課外に設け、実際に中国語を使用することのできる場面を設定した。交流を通して学生のモチベーション向上も目指した。

・・・2クラス

[3] 課外での交流会だけでなく、授業時間の一部に留学生の発表を組み込み、交流を通して親しみを感じられるようにした。

[4] 授業アンケートを読む限り、フランス語だけをみっちり教えるのではなく（本当はそうしたいが）、冗談やシャレを取り入れて進める授業法が好評のようであった。また、毎回シャンソンを取り入れたのも良かったようである。

[5] 再受講生のクラスなので、いかにやる気を維持させるか（正確には、とりあえず授業に来るという習慣をつけさせるか）に最も注意を払った。初修の語学授業では、どうしても講義部分が多くなってしまっているので、途中で注意力が散漫にならないよう、書き込みのプリントを作成し、また、一つの授業時間内でも、適当なところまで進むたびに、練習問題に取り組みせて、理解度を自身でも確認できるようにするなど、できるだけ工夫をこらして、学習を継続できるよう、努めた。

[6] この科目担当は初めてで、しかも急に頼まれたので授業は精一杯やったつもりですが、不慣れな点があったかもしれません。しかし少ない人数で学生も意欲があり全員目標とする独検4級に合格したので自分もとてもうれしいです。

[7] 淡々と単語や文法の話をするだけではなく、現時点で使える文や単語を使って学生達に会話を考えさせるなど使える中国語を意識した授業を行った。また、台湾人留学生が冒頭10分ほど文化紹介をする試みを数回行い、おおむね好評であった。また教育文化学部の先輩に中国や台湾への留学経験を話してもらうなど、学生達の学習モチベーションの喚起にも留意した。資料投影装置を駆使し、学生が顔を上げて発音練習に取り組めるよう環境を整備した。

[8] 半期だけの必修ではあるが、大変前向きな授業態度の学生達だったこともあり、話せる中国語を目指したよい授業ができたと思う。特に、教科書を暗唱するのに加え、覚えたフレーズで会話をさせたり、またゲーム形式で中国をつかったコミュニケーションを促すなど、学生の興味が尽きないような様々な工夫をした。おおむね好評であったと思う。学生の中国語の水準は全国的に見ても平均以上であり、週一回、半期でありながらよくここまでがんばってくれたと学生を誇りに思う。

[9] はじめに好きな席に座ってもらい、その席を指定席にし、名前前で呼んだり出席の確認をしたりしている。しかし、後ろの席だとやはり見づらかったり、集中しにくかったりするので、一度くらい席替えをすればよかった。（パートナーも当たり外れがあるようでまったく練習にならない組もあった。）

[10] 15回のみ、週一回のみという制限のある状況での中国語授業は今年度が初めてでした。やはり週二回のころよりも学生の進歩は遅く、戸惑いがありました。

最終的には、彼らの底力が発揮されたのか、簡単な会話を正確な発音でできるレベルまでもっていったことが誇りです。

中にはネイティブとふれあいたいという意見もありましたが、放課後にそのような機会は設定しています。また、本来そのような活動は後期がふさわしいのではないのでしょうか。

もっと余裕があればクラスでの活動を増やし、達成感を持たせることができたと思いました。来年度は教科書の選定からやり直し、場合によっては教科書を作成することも考えながら授業に取り組みたいと思います。

できれば学生達が後期も続けて中国語を学習してくれれば、と願うばかりです。

[11] 発表を評価するには、日本語と発表能力になるが、文献のレビューや討論をどのように評価するのが、はっきりと理

解ができていない。

[12] 学習者が学んだ語彙、文法、表現をランダムに発表していくため、講師の準備時間がほぼない。また発表が予想される語彙が全く分からないため、説明がうまくできないことが少々ある。

[13] 学習者が選んだ記事を発表するのであるが、記事を全部読むだけの発表者も見られた。また、個人で好きな記事を選ばせたので、興味のないトピックに関しては、あまり活発な意見交換にはならなかった気がする。かといって、こちらで勝手にすべてのトピックを選ぶと学習者の意欲をなくすため、そのあたりの調整が難しかった。

[14] 学生の入学時点の偏差値を配慮してクラス編成をしていただきたいです。

[15] 前期のみで必修単位とする初修外国語の授業を初めて担当したが少なくとも通年を必修としてまとまった内容の授業をしたいと強く思った。

[16] 毎週留学生が書いた作文を紹介し、議論を重ねたり、内容を話し合ったり、また最終的には学習者が作文を書き上げるということをテーマに前期授業を行い、概ね目標が達成された。また、作文というテーマで課題も出したので、大学の日本語学科として、文集をウェブサイトに取り上げたいが、語学教育センターには今のところ、そのようなことはできないようである、要改善。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19~21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 34 (89%) ②いいえ： 1 (3%) 未回答： 3 (8%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 32 (84%)
 ②読んで理解する： 28 (74%)
 ③自分の考えをまとめて話す： 3 (8%)
 ④自分の考えを文章にまとめる： 2 (5%)
 ⑤討論する： 1 (3%)
 ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 9 (24%)
 ⑦その他： 3 (8%)・・・「自分のことを説明できる」3 クラス
 未回答： 4 (11%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 20 クラス（順不同）

[1] 授業のなかでペアワーク、グループワークを多く取り入れ、期末試験も学科ごとに発表する形で、クラス内のコミュニケーションを活発にし、能動的な授業参加を促した。・・・4 クラス

[2] 会話文はペア練習、グループ練習するよう心がけた。新しい文法を習った後はテキストになくても実際に使えるような身近な表現、会話を例示、練習するように伝えた。

[3] 授業内では、ペアでの会話練習があります。また、使える単語や文章を駆使して中国語で相手の情報を聞き出す練習なども最後の方では行いました。このような外国語学習の活動はコミュニケーション能力の育成に寄与するものと考えます。

[4] 小さなグループ(3, 4人)に分け、TAにも入っていただき、自分の感じたことを他の学習者に分かるように日本語で伝えるということを行った。

[5] 自分の名前を中国語で発音できるよう、発音を示した用紙を一人一人に配布した。その上で、自己紹介の基礎となる表現集をプリントとして配布し、自分に関する箇所を書きこんでいく作業を通して、自己紹介を完成させた。・・・2 クラス

[6] 中国語で短文の自己紹介ができるように指導した。全員に自身の中国語名を発音できるよう、発音を書いた紙を渡し、さらにはプリントを作成して、自分で書きこんでいくようにした。

[7] 皆の前で覚えてきた中国語をまるで会話するように話す、あるいは覚えたフレーズで互いに質問しあうなど、基本的なコミュニケーション力の育成につながるような取り組みができた。

[8] 外国語での会話を組み立てさせ、皆の前で発表してもらうなどコミュニケーション能力の育成と外国語能力の向上がうまくみ合うように工夫した。

[9] 会話を重視して授業をしました。

[10] 授業中よく会話をします。

[11] CD,DVD の活用。

[12] 板書を控え、学習者にできるだけ、研究、調べをさせる時間を与え、発表してもらった。事前に質問や話し合いをクラス内で儲け、大まかな概要と発表点をしぼることができたと思う。

[13] 単なる人前での発表に終わるだけでなく、どこで何をどのように学び、その例文までもを紹介し、自分で理解できるレベルになるには、一度限りの発表では無理であると考えられる。そのため、毎週学習者には7つの言葉、と限定をし、絞らせて、深く発表させたが、性格の問題か、人前で話しながらない学習者もいたために、最低限のことだけで済ませる学生もいた。できるだけ、質問をし、学生には答えさえるようにしたが、クラス内での発表者という立場だったために、恥ずかしさが垣間見える学習者もいた。そのような場合には、他の発表者の準備中に個人的にコミュニケーションをとるようにした。

[14] 挨拶と目を見て話すことがまずできるようにした。

[15] 私はドイツ語を教えておりますのでコミュニケーション能力の育成を自動的にしております。

具体的にはドイツ語を聞くこと、読むこと、書くことを育成しております。

[16] 教科書の練習問題をするくらいで、他には特にない。

D (問 22～25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 3 (8%) ②いいえ： 31 (82%) 未回答： 4 (11%)

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 3 (8%) ②6～10回： 0 (0%) ③11～15回： 0 (0%)

未回答： 35 (92%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 2 (5%) ②政治・経済・産業： 0 (0%) ③自然環境・フィールド体験： 1 (3%)

④その他： 1（3%）・・・「方言」 未回答： 34（89%）

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 4 クラス（順不同）

[1] 「牧水の世界」という演奏会とレクチャーを開き、手伝いや観客として多く参加してもらった。・・・2 クラス

[2] 今回、グループごとにフランス語で曲を歌い、その音源に宮崎と宮崎大学を紹介する映像を撮影してつけた動画を作成してもらった。この動画をいずれ YouTube に投稿することで、全世界のフランス語圏の人々に宮崎と宮崎大学をアピールする予定。この方法は一年生の授業にも応用したいと考えている。

[3] 宮崎方言を取り入れ、発表をしてくれる学習者がいたため、学生、講師にとっても非常に役立つ授業にあったが、宮崎出身者ではないため、授業として定期的には紹介できない難点がある。